

柱 Ⅲ	安全・安心	減災 ～災害に強いかながわ～
	プロジェクト 11	
プロジェクトのねらい		安全
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自助・共助・公助の連携により大規模災害などから県民のいのちを守る ▶ 中長期を見据えた減災戦略の実施による災害被害軽減 		

最終評価（総合計画審議会による二次評価）



順調に進んでいます

訓練を通じて、自助・共助・公助の連携強化が図られたことなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。

- ・ 地域における災害対応力の強化のため、身近な住民同士のつながりを一層強めていく必要があります。
- ・ 外国人観光客を含む来県者のため、災害時の避難誘導等について取り組む必要があります。

総合分析（県による一次評価）

- 「かながわシェイクアウト(いっせい防災行動訓練)」の参加者数は各種イベントでの新規実施など、取組みを強化したことにより順調に増加し、目標を達成しました。【数値目標】
 - 「ビッグレスキューかながわ」では、多くの関係機関が参加し、連携を確認するなど、自助・共助・公助の連携強化を着実に推進しました。【主な取組みと成果】
 - 「地域防災計画(地震災害対策計画)」の改定など、中長期を見据えた減災のための取組みを着実に推進しました。【主な取組みと成果】
 - 東日本大震災を契機に食料や飲料水を備蓄している人の割合は、前年と比較すると増加しましたが、震災から6年が経ち震災直後(H24・67.5%)と比較すると備蓄している人の割合は減少しています。【県民ニーズの動向】
 - 全国的に消防団員数が減少する中、本県では現状を維持しています。【その他社会環境】
- ⇒ 全ての項目で数値目標を達成しており、訓練を通じて自助・共助・公助の連携強化が図られるなど、プロジェクトは順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

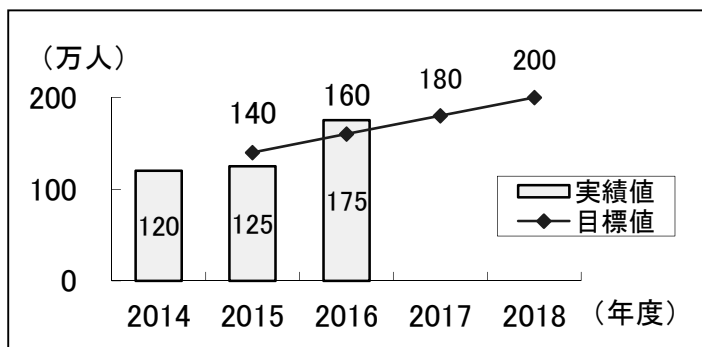
- ▶ 自助・共助・公助の連携により大規模災害などから県民のいのちを守る
 - 「大きな地震に備えて、食料や飲料水を備蓄している」と回答した人の割合はわずかに増加したが、さらなる県民の危機意識の向上が課題
- 引き続き、市町村など関係機関と連携した住民参加の訓練や普及啓発を実施

▶ 中長期を見据えた減災戦略の実施による災害被害軽減

- 神奈川県地震防災戦略に基づく対策を、県及び市町村、県民などと一体となり推進していくことが課題
→ 県民などへの減災のための取組みの周知や、市町村が実施する減災に向けた取組みを支援するなど、県民総ぐるみの取組みを推進

数値目標の達成状況

① 「かながわシェイクアウト(いっせい防災行動訓練)」の参加者数(事前登録者数)(災害対策課調査)

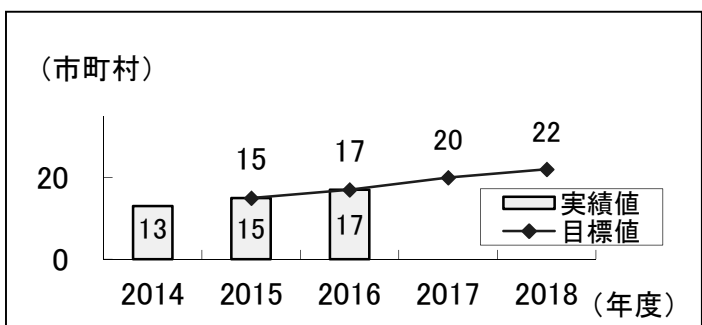


【2016年目標値】	【実績値】	【達成率】
160万人	⇒ 175万人	109.3%

【分析】

- 2016年の達成率は109.3%となっています。
- これは、各種イベントでの新規実施、私立学校、企業団体単位での参加の拡大、高等学校関係イベントでの実施など、取組みを強化したことによるものです。

② 新たに消防の広域化や消防指令センターの共同運用に参加する市町村数(累計)(消防課調査)

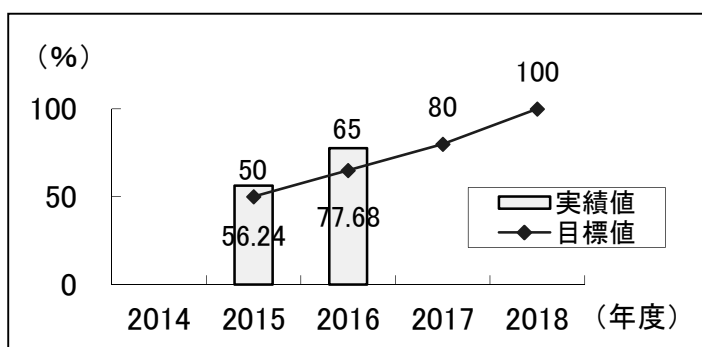


【2016年目標値】	【実績値】	【達成率】
17市町村	⇒ 17市町村	100.0%

【分析】

- 2016年の達成率は100.0%となっています。
- これは、厚木市と清川村の消防の広域化によるものです。

③ 耐震診断が義務付けられた大規模建築物・沿道建築物の耐震診断結果の報告率(累計)(建築安全課調査)



【2016年目標値】	【実績値】	【達成率】
65%	⇒ 77.68%	119.5%

【分析】

- 2016年の達成率は119.5%となっています。
- これは、耐震診断が義務付けられた建築物のうち、大規模建築物は、ほぼすべての診断結果が報告されたことと、沿道建築物についても適切に報告されたことによるものです。

2016年度の主な取組みと成果

A 自助・共助の取組み促進

- 市町村の消防防災力の強化などに向けた支援

- 消防団、自主防災組織の資機材整備など、市町村の取組みを支援
- 県民の消防への理解と関心を高めるとともに、消防団への加入促進を図るため「かながわ消防フェア2016」を実施
- 女性消防団員の活動力を強化するとともに、消防団への女性の加入促進を図ることを目的として、実際の災害を想定した実動訓練を実施
- 地域防災の中核として活躍している消防団員を、地域ぐるみで応援し、消防団員の確保及び加入促進を図るため、「かながわ消防団応援の店」登録制度を開始
- 防災教育やシェイクアウト訓練などによる防災意識の向上
 - 地域や学校への防災教育の実施による防災意識の向上
 - 「かながわシェイクアウト(いっせい防災行動訓練)」の実施【参加者約175万人】
 - 県立学校でのDIG訓練(Disaster:災害、Imagination:想像、Game:ゲーム・参加者が地図を囲みながら災害時の対応策を考える災害図上訓練)の実施【168校】(参考:県立学校数173校(分校含む))

B 災害対応力の強化

- 火山活動の観測体制など災害時の避難・応急活動体制の強化
 - 神奈川県地域防災計画(地震災害対策計画)の修正、神奈川県国土強靱化地域計画の策定
 - 土砂災害警戒区域などの指定に必要な基礎調査の実施
 - 火山災害対策資機材などの整備
 - 「箱根山の噴火を想定した大涌谷周辺の観光客等の避難誘導マニュアル」を改訂(火山ガスへの対処要領を追加)
 - 「ビッグレスキューかながわ」の実施【参加111機関、約1,450人】
- 県全体としての消防防災力の向上
 - 神奈川県内消防広域応援・緊急消防援助隊県内合同訓練の実施【25消防(局)本部参加】(参考:県内消防(局)本部数25)
 - 市町村の消防広域化・県内広域応援のための取組みを支援、新たな県内広域応援体制の運用開始(かながわ消防等)
- 東日本大震災の被災地・被災者への支援
 - 被災地の復旧・復興のための職員派遣
 - 県営住宅などの家賃等無償化による提供、福島県からの自主避難者向けに特別募集を実施【70戸募集】、被災者用民間賃貸住宅の提供【308契約】
 - かながわ避難者見守り隊などによる県内避難者への支援

C 災害に強いまちづくり

- 河川、急傾斜地などの整備・維持管理やなぎさづくりなどの推進
 - 大規模災害からの早期復旧・復興に資する地籍調査の促進【25市町】
 - 護岸整備や遊水地などの洪水調節施設の整備による治水対策の推進
 - 急傾斜地崩壊危険区域などにおける土砂災害防止施設の整備
 - 養浜によるなぎさづくりの推進【9海岸】
- 県有施設や橋りょうの耐震化などの推進、大規模建築物などの耐震化の促進
 - 県有施設の耐震化の推進、橋りょうの耐震補強の実施【18橋】
 - 大口径基幹管路や災害拠点病院などの重要給水施設への供給管路を中心とした耐震化の推進
 - 大規模建築物などに対する国・市町村・県が協調した補助による耐震化の促進

県民ニーズの動向

① 「地震、台風、火災などへの対策が十分整っていること」を重要だと思う人の割合(県民重要度)

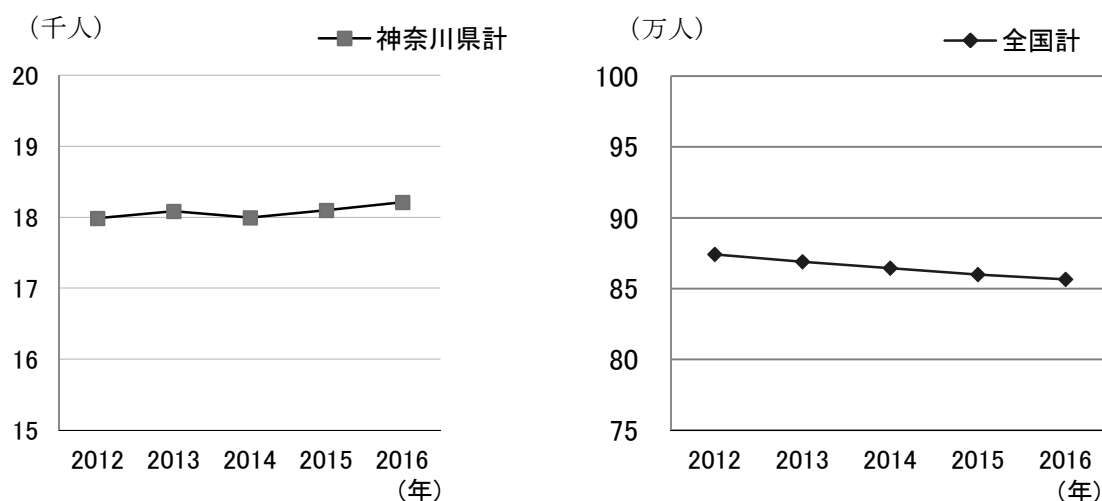
89.9%
(前年 90.3%)

② 「大きな地震に備えて食料や飲料水を備蓄している」と回答した人の割合

60.1%
(前年 58.9%)

その他社会環境を表す指標

○ 消防団員数の推移(消防団の組織概要等に関する調査の結果(総務省消防庁調査))



○ 消防団員数は人口減少、少子高齢化に伴い、全国的に年々減少する中、神奈川県消防団員数については、現状を維持しています。

○ これは、県内市町村とともに、消防団の入団促進を図ったことによるものと考えられます。

主な取り組みや統計データに関する情報

○ 神奈川県地域防災計画(地震災害対策計画)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5150/>

○ 神奈川県国土強靱化地域計画

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f533887/>

○ 消防団の組織概要等に関する調査の結果(総務省消防庁)

https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h28/08/280819_houdou_1.pdf

柱 Ⅲ	安全・安心	治安 ～犯罪や事故のない安全で安心なまちづくり～
	プロジェクト 12	
プロジェクトのねらい		警 安 保 教
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 安全で安心してらせる地域社会の実現 ▶ 犯罪被害者などへの支援・理解促進 		

最終評価（総合計画審議会による二次評価）



順調に進んでいます

刑法犯認知件数や交通事故件数が着実に減少していることなどから、県の一次評価は妥当であり、「順調に進んでいる」と評価します。

- ・ 体感治安の改善に向けて、不安感の解消につながる様々な取組みを進めていく必要があります。

総合分析（県による一次評価）

- 地域で活動する防犯ボランティアの育成数は、目標を達成しました。【数値目標】
- 犯罪抑止力及び捜査力向上のための基盤整備に取り組んだほか、犯罪被害を未然に防止するための各種情報発信、自主防犯活動への支援、防犯カメラの設置促進や被害者支援など、安全で安心してらせる地域社会の実現に向けた取組みを着実に進めました。【主な取組みと成果】
- 県行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野として、「治安対策」が8年連続1位となったほか、「犯罪や事故がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うもの」としては、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」と回答した人の割合が昨年を引き続き最も高くなるなど、ソフト、ハードの両面での取組みが強く求められています。【県民ニーズの動向】
- 刑法犯認知件数は引き続き減少しており、指数治安は改善傾向にあります。【その他社会環境】
⇒ 全ての項目で数値目標を達成しており、刑法犯認知件数や交通事故件数も着実に減少するなど、プロジェクトは順調に進んでいます。

今後の課題と対応方向

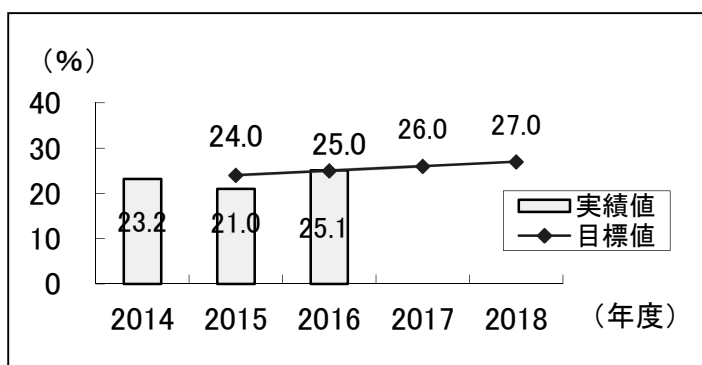
- ▶ **安全で安心してらせる地域社会の実現**
 - 県民一人ひとりの体感治安の向上が課題
 - 地域の主体的・継続的な防犯活動の活性化、地域住民の要望などを踏まえた警察活動の推進
 - 被疑者の早期検挙のための捜査基盤の整備
 - サイバー空間の脅威に対する総合対策の強化
 - 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ 2019™に向けた総合的な治安対策が課題
 - 国際テロ対策の強化
 - 訪日外国人等の急増への対応

▶ 犯罪被害者などへの支援・理解促進

- かながわ犯罪被害者サポートステーションの支援の充実、犯罪被害者等への理解の促進が課題
→サポートステーションの支援体制の強化や支援内容の充実、犯罪被害者などへの理解促進講座の推進
- 性犯罪・性暴力被害者への支援の充実が課題
→かながわ性犯罪・性暴力ホットラインの安定的運営、医療機関との連携強化

数値目標の達成状況

① 「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」に関する県民意識(満足度)(県民ニーズ調査)

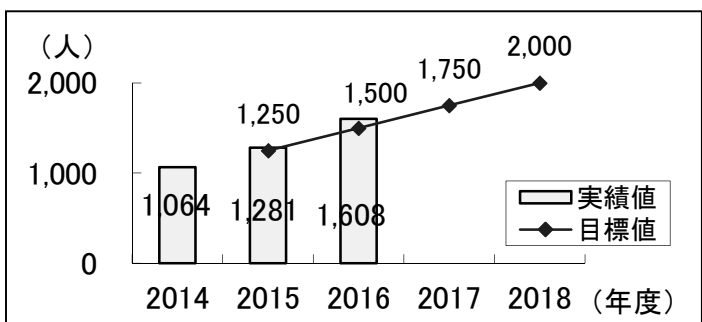


【2016年目標値】	【実績値】	【達成率】
25.0%	⇒ 25.1%	100.4%

【分析】

- 2016年の達成率は100.4%となっています。
- これは、刑法犯認知件数や交通事故発生件数が減少したことで、満足度が高まったものと考えられます。
- なお、同項目について「満たされていない」と回答した人は28.8%でした。

② 地域で活動する防犯ボランティアの育成数(累計)(くらし安全交通課調査)



【2016年目標値】	【実績値】	【達成率】
1,500人	⇒ 1,608人	107.2%

【分析】

- 2016年の達成率は、107.2%となっています。
- これは、多様な研修会などの開催により、安全・安心まちづくりに対する県民の関心が高まったものと考えられます。

2016年度の主な取組みと成果

A 犯罪などの起きにくい地域社会づくり

- 自主防犯活動への支援、防犯カメラの設置促進
→県民向けセミナーの開催【8回】、若者向け研修の開催【3回】
→防犯活動団体向け研修の開催【2回】、地域の安全・安心まちづくり活動を行う市町村や自主防犯活動団体への補助金の交付【地域防犯カメラ設置事業 200台、地域連携モデル事業6地域】
→地域防犯指導の実施【302回】
- 犯罪情報などの発信、広報啓発活動の推進
→振り込め詐欺など被害防止コールセンターによる注意喚起【868,981件】
→ピーガールくん子ども安全メールの発信【受信登録件数 71,298件】
→くらし安全通信の発行【4回、発行部数 92,000部】

B 県民に不安を与える犯罪の抑止・検挙活動の強化及び交通事故の防止

- 街頭パトロール活動の強化と交通事故防止活動の推進
 - 県民に制服姿を顕示し、地域住民の安心感を高める活動の実施
 - 交通事故発生実態の分析結果などを踏まえた効果的な交通事故防止対策
- 複雑・巧妙化する犯罪に対応するための犯罪捜査力の向上
 - 県民に不安を与える犯罪の情報をデータ化し、分析するシステムの高度化を推進
 - 客観的証拠収集能力の向上のための基盤整備
 - 特殊詐欺根絶に向けた抑止・検挙体制の強化
- 総合的な組織犯罪対策の推進
 - 総合的な暴力団対策の推進
 - 暴力団対立抗争に対する集中取締りと暴力団事務所に対する適格団体訴訟の支援
 - 関係機関と連携した薬物対策
 - 県内各地での薬物乱用防止キャンペーン等による啓発
 - 外国人犯罪の取締り
 - 犯罪インフラ対策の推進
- 総合的なサイバー犯罪対策の推進
 - サイバー犯罪に対する対処能力の向上、民間と連携した広報啓発活動の強化、サイバー防犯ボランティアの育成、サイバーセキュリティに関する講習等の拡充

C 犯罪被害者などへの支援

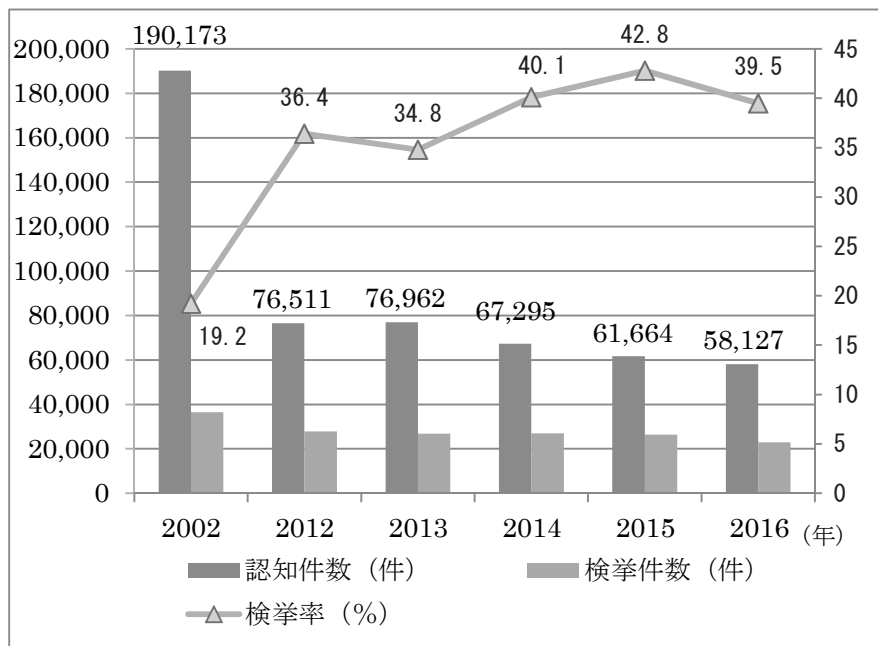
- かながわ犯罪被害者サポートステーションなどにおける支援の充実
 - 犯罪被害者などの立場に立った支援の提供【1,044 件】
 - 犯罪被害者などへの理解促進講座の実施【12 回】
- 県内の中学・高校生に対する犯罪被害者などの理解促進
 - 「いのちの大切さを学ぶ教室」の開催【70 回】、受講者を対象とした「作文コンクール」の開催及び表彰

県民ニーズの動向

① 「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」を重要だと思う人の割合(県民重要度)	95.1% (前年 96.0%)
② 県行政を進めていく上で力を入れて取り組んでほしい分野について「治安対策」と回答した人の割合	51.0% (前年 57.9%)
③ 犯罪や事故がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものについて、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」と回答した人の割合	26.1% (前年 28.9%)

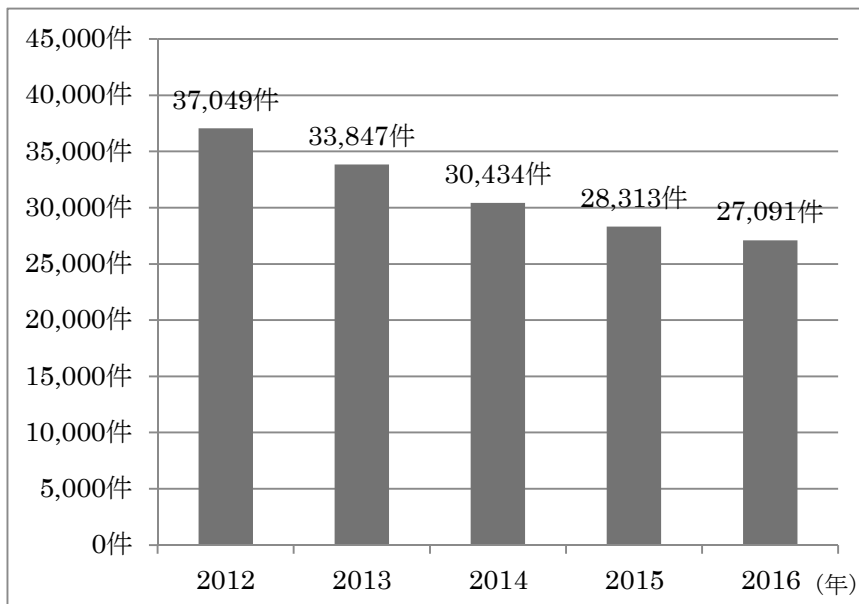
その他社会環境を表す指標

○ 刑法犯認知件数及び検挙率(警察本部調べ)



- 2016年の刑法犯認知件数は58,127件、検挙率は39.5%でした。
- 検挙率は前年からマイナス3.3ポイントですが、刑法犯認知件数はマイナス3,537件であり、指数治安は改善されています。

○ 交通事故状況(警察本部調べ)



- 2016年の交通事故発生件数は、27,091件でした。
- 前年から交通事故発生件数はマイナス1,222件で、着実に減少しています。

主な取組みや統計データに関する情報

- 神奈川県警察 暮らしの安全情報
<http://www.police.pref.kanagawa.jp/index2.htm>
- 神奈川県警察 統計
<http://www.police.pref.kanagawa.jp/index7.htm>
- 暮らし安全交通課ホームページ
<http://www.pref.kanagawa.jp/div/0222/>